

キトラ古墳の予備調査

はじめに

2001年3月の明日香村の調査に引き続き2001年12月6日、文化庁はキトラ古墳の予備調査を行った。当研究所は文化庁からの正式依頼を受け、これに協力した。

今回の調査は、前回の調査成果をふまえ、発掘および壁画保存処理の際に壁画を傷めずに石槨内へ安全に入る事ができるかどうかを検討するために実施した。そのため、南壁全体を実測し、盗掘坑の形状を知るのが主たる目的であった。また、前回よりカメラの性能が上がったこと(400万画素)、撮影用ポールの長さが長くなったこと(全長4m)などから、各所の、より詳細なデータを得るべく撮影調査を行った。その結果、南壁の幅、朱雀の位置などは判明したが、当初の目的であった盗掘坑の形状および南壁の高さは、盗掘坑からの多量の土砂の流入により正確な形状を得ることができなかった。

画像からの主な所見

南 壁 天井と南壁との間には約2cmの隙間がある。盗掘坑打ち欠き上部の漆喰が浮き上がり、剥落寸前である。朱雀の位置、大きさが判明。羽先の先端は盗掘坑により欠損。

西 壁 白虎のほぼ正面からの画像が撮影できた。西壁奥の人物像らしき画像の部分撮影ができたが、顔部分は完全に剥落。漆喰の状態は白虎の頭部前方上が特にひどく、かなり浮き上がって剥落寸前である。西壁の木口部分には南壁をはめこむための削り込みらしき形跡がある。

北 壁 複数の人物像らしき画像の部分撮影ができたが、顔はいずれも確認できない。玄武の一部に緑色の顔料らしきものを確認。漆喰の状態は他の壁面より比較的安定しているように見受けられる。

東 壁 人物像らしきものは、検討結果から獣面人身像とほぼ断定し、十二支の寅である可能性がある。漆喰の状態は、獣面人身像の下部に剥落のおそれがあるほか、壁面に大きな漆喰のズレを確認。青龍については、前回同様、鉄分の沈着により舌、前足、胸飾り以外の部分は確認できない。

天 井 星は金箔であることを確認。日輪も金箔で表現しており、その中に黒色の図像らしきものを確認。月輪

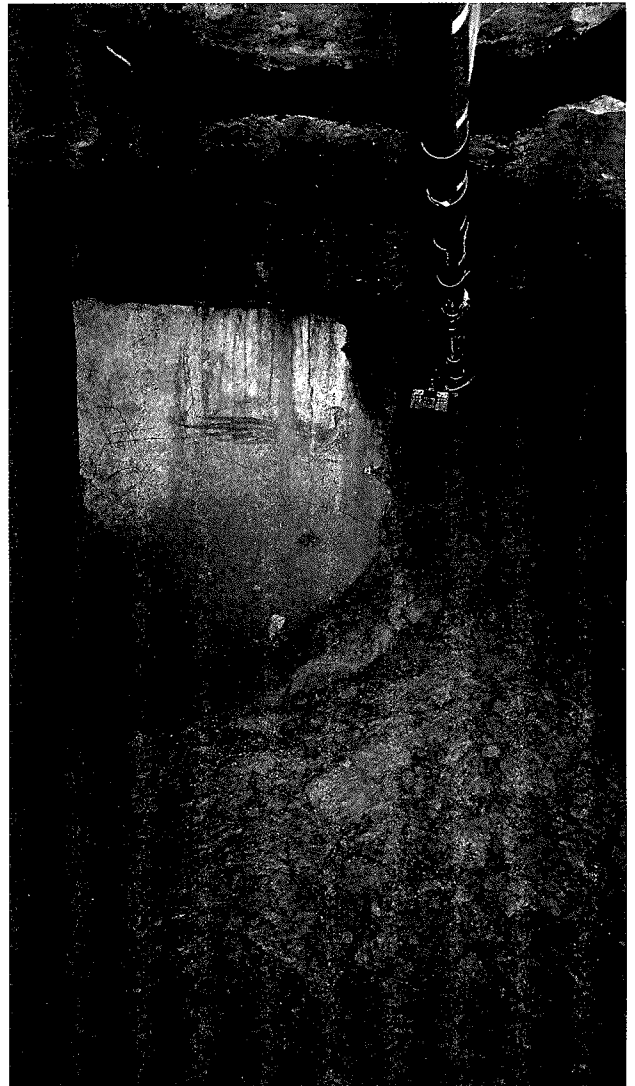


図43 南壁盗掘坑と土砂流入

は剥落部分以外はグレーになっており、おそらく銀箔で表現されていたと思われる。漆喰の状態は非常に悪く、海綿状になっており、各所で剥落の危険性が高い。天井石のつなぎ目には1cm程度の隙間が空いており、そこに漆喰が充填されている。

床 盗掘坑直下に数センチ程度のパイプ状の遺物らしきものを確認。土砂は全体に堆積しており、多いところで約60cm、少ないところで10~20cm程度と推定される。

まとめ

前述のように、当初の目的であった盗掘坑の形状は残念ながら明らかにできなかったが、昨年度調査では人物像と思われていた画像が獣面人身像であることが判明したほか、漆喰の状態がきわめて悪いことも再認識された。石槨内へどのように入るか、土砂をすべて除去するのか、人の目で確認するのが先決なのか、応急的に処理をするのか、等々、現時点では本調査に向けて解決すべき多くの課題を残している。

(井上直夫)

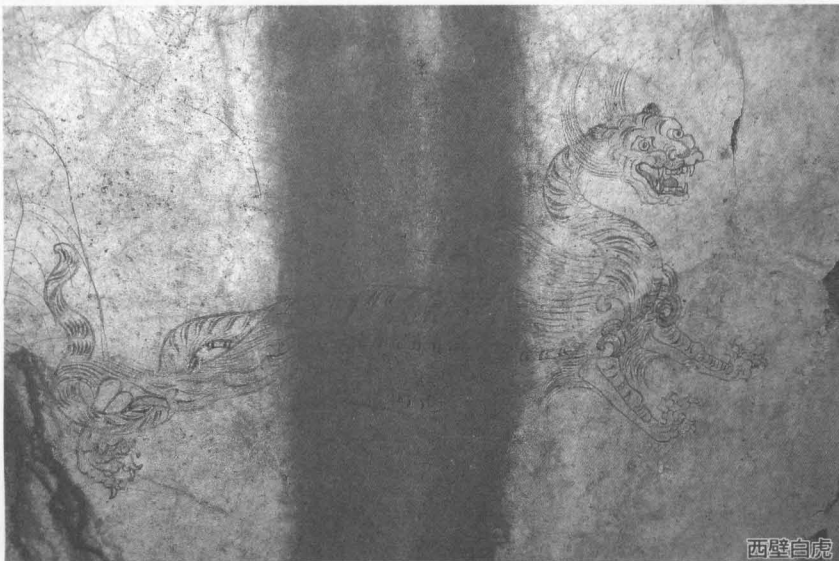
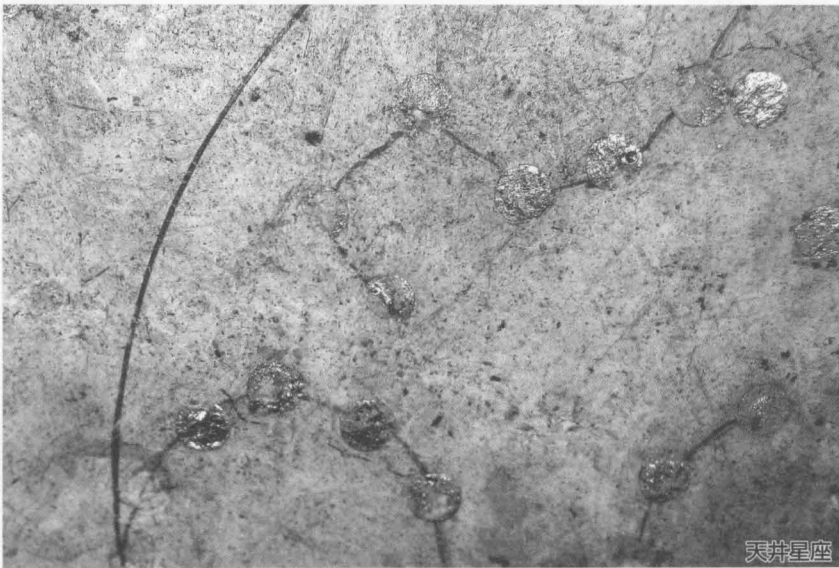


図44 東壁・西壁・天井の画像と現況